

2025 年 2 月 13 日

2023 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 秋田災害支援プロジェクト alecole

代表者・役職名 氏名 代表 千葉菜津樹

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

災害・防災知識向上プロジェクト

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

近年頻発化している自然災害は、地域や季節を選ばずいつでもどこにでも発生するようになりました。また災害の頻発化により、被害が起きて遠方からの支援は難しい状況になってしまいました。このことにより地域の自助の力がより一層必要となっています。秋田県は災害に特化して活動している団体が少ないため、これまで他の地域で積み重ねてきた知見を秋田県でも普及したいという思いから設立に至りました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

地震や台風、豪雨など季節や場所を問わずに全国で災害が多発しており、数十件程度の浸水被害は報道すらされなくなっていました。秋田県も例外ではなく、ここ数年でも 2017、2018、2022 年に豪雨災害が発生しています。秋田県は災害支援や防災に特化して平時から活動している団体が少ないです。県民が災害に関する知識を習得する機会は非常に少ない状況が続いています。自身や大切な人の命を守るために、県民の防災に関する知識の向上はまだまだ必要とされる状況です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・災害対応のための講習会および防災展示の実施
対象: 災害対応に関心のある方、地域住民
内容: 災害時の流れ(時系列)、避難行動、防災グッズ紹介、等
回数: 3 回
- ・防災に関する資料作成、配布(100 部)
被災したらしてほしいこと、非常持ち出し袋についての資料を作成し配布

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

【結果】

実施: 3 回、参加者数: 合計約 130 名

【成果】

住民が防災対応として平時から準備しておくべきものはどういったものがあり、ネットショッピングが難しい高齢者が、具体的に近所のどこの店に行けば防災グッズを購入できるのかをご理解いただけました。その後、実際に購入したとの声も寄せられました。

【社会的な変化】

平時の取り組みとして実施しようとしていた内容でしたが、事業開始直前の令和5年7月と9月に秋田県内が水害による被災地になったことにより、災害対応や防災への意識は自然と高まりました。身近で被災を経験した住民にとって、次の災害の際の避難は大きな課題となっています。どういったものが必要になるのか、どういった行動

が自分や身近な人を助けることになるのかを考えて行動に移す住民が増えました。また、災害の際に支援側に回ることになる社会福祉協議会の方々にも、平時からできる準備についてご理解いただくことができ、「防災」がより具体的に身近なものになりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

現時点で災害対応や防災に興味のある方たちに向けて講習を実施することは可能ですが、関心のない方たちにも知っていただく機会の設定が必要だと感じます。1回伝えて伝わるものでもないので、何度も繰り返していく必要があります。そのような場を繰り返し設定していくには地域の方々の理解を今以上に得る必要があります。また、防災だからといって特別なことをするのではなく、いかに日常の中に防災行動を取り入れられるかをより広く浸透させていくことが必要だと感じます。暮らしの延長にある防災を、より取り組みやすい方法で広めていくために、具体例をわかりやすくチラシにまとめることであったり、目に触れる機会を増やしていく必要があると感じます。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。